

令和5年度 鷹南学園 三鷹市立中原小学校 経営計画

令和5年度の経営計画について、下記のとおりお届けします。

記

学園の経営計画 ※学園内で統一記述		学校の経営計画 ※学校ごとに記述						
<b>昨年度明らかになった課題 ※昨年度の学園評価から</b> ① CS委員会の目的等について引き続き合意形成を進め、スクール・コミュニティの核を目指す。 ② 学園生の交流活動・乗り入れや学校支援ボランティアの活用について意義や目的を考え、さらに工夫し、効果を上げていく。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向け、授業改善を図る。学習用タブレット端末の活用・個別最適な学びを踏まえた実践をしていく。 ④ 小・中一貫して学園生の心を豊かにし、一層安心して楽しく学園生活を送っていただけるようにする。		<b>昨年度明らかになった課題 ※昨年度の学校評価から</b> ① CS委員会や部会の意義や目的、役割について合意形成を進め、スクールコミュニティの核としての役割を充実させる。 ② 学園生の交流活動や乗り入れについて意義や目的を考え、さらに工夫し、効果を上げていく。 ③ 主体的・対話的で、深い学びに向けた授業改善の成果を検証し、学びを充実させていく。 ④ タブレット端末の活用を踏まえた個別最適な学びを充実させる。 ⑤ 自他を尊重し、相手を思いやり、みんなが楽しい学校生活を送っていただけるようにする。						
<b>学園で重点的に育む資質・能力 ※教育課程届出から</b> ① 主体的に学びに向かう力 ② 自他のよさを肯定的に受け止め人を思いやる力 ③ 運動に対する関心をもち、自ら体力を高める力		<b>学校で重点的に育む資質・能力 ※教育課程届出から</b> ○自分で考える(自ら学び、考え、行動する) → 基礎的・基本的知識・技能(何を知り、何ができるか)・学習習慣、思考力、判断力、表現力等(それをどう使うか)・学ぶ意欲や学び方(どのように生きるか)…を身に付けた子供 ○人を思いやる(思いやりの心をもち、互いに認め合う) → 思いやり、他者理解の能力、社交性等を身につけた子供 ○健康でたくましくよく働く(進んで心と体をきたえる) → 心身の健康(自己肯定感、体力)、集中力、持続力等を身につけた子供						
<b>今年度の改善方針</b> ① CS委員会において研修や熟議を行い、合意形成を丁寧にしながスクール・コミュニティのネットワークを構築する。 ② 学園生のための交流活動となるよう、丁寧に検証する。また、学園の教育活動全体で学校支援ボランティアの活用を進める。 ③ 学園研究を活用し、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの取り組みについて検証し改善を積み上げていく。 ④ 子どもを信じ、保護者と連携し、健全育成を推進していく。		<b>今年度の改善方針</b> ① 教員やCS委との交流や熟議等を行い、合意形成を丁寧にしながスクールコミュニティのネットワークを活用・発展させる。 ② 学園生の交流活動や乗り入れの効果について丁寧に検証し、活動の改善と充実に役立てる。 ③ 見方・考え方を働かせ、教科等の本質に迫る、主体的・対話的で深い学びを一層充実させる。 ④ 個別最適な学びを実現するため、学習用タブレット端末の活用し、指導の個別化と学習の個性化を積極的に取り入れる。 ⑤ デジタルシチズンシップ教育、鷹南スタンダードについてわかりやすく発信し、保護者と連携して健全育成を推進する。						
今年度の重点目標		学園としての取組		取組項目	学校の経営目標 (中期目標)	今年度の重点目標 (単年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	
人間力・社会力の育成	コミュニティ・スクールの推進	①CS委員会の意義や役割を明確にし、学園運営に一層生かしていく。 ②たかみんネットのよさを探り、活動することでスクール・コミュニティを推進する。	①研修会や熟議を開催し、CS委員会やCS部会の意義や役割の合意形成を丁寧に進め、創造的で持続可能な取り組みを進める。 ②従来のCSプロジェクト活動に加え、放課後の子供の活動や社会教育・生涯教育などの多様な活動について、希望調査等をもとに新たな活動内容や場所を提供して、学校3部制の活動を推進する。	コミュニティ・スクールの運営	①CS委員会の意義や役割を明確にし、学園運営に一層生かしていく。 ②学校3部制の実現に向け、学園・学校の実態に合った取り組みを推進する。	CS委員会の意義や役割について教員が理解を深めるとともに、CS委員会と学校の実態や課題を共有し、連携・協働を推進する。 ②-(1)学校の実態に応じた第2部としての放課後の活動を充実させる。 ②-(2)学校の実態に応じた第3部の実施を、できることから検討・実施していく。	CS委員会の意義や役割、地域協働活動について理解を深めるための教員研修やCSと教員との熟議を実施する。 ②-(1)学校支援ボランティア等の拡充をしながら組織的・計画的に進める。 ②-(2)地域学校協働活動の活用も図りながら、地域のニーズに応じた活動や学校・地域の強みに応じた活動を試行的に実施する。	
	と小・中一貫教育の推進	①より多くの教科で相互乗り入れ授業を進め一層の充実を図る。 ②学園行事の内容の精選・検証を行い、質を高めるとともに交流活動の充実を図る。	①鷹南学園の教員たちの日々の授業改善により、児童・生徒たちがどのように育っているかを見取る方法について、研究を進める。 ②これまで培われてきた学園行事が学園生主体の取り組みになるよう検証し、意義や目的を考え、取り組みの変更や活動内容の工夫・改善をしていく。	と小・中一貫教育活動	効果的な乗り入れ方法について一般化を図り、より多くの教科・領域において効果的な方法を示していく。 効果的な交流活動の在り方について検証をもとに創造する体制づくりを進めていく。	・効果的な乗り入れ授業の在り方を共有しつつ全教科・領域での研究を進める。 ・交流活動の意義を明確にし共有するとともにその効果を明らかにする。	・昨年度の学園研究で得た成果をもとに授業実践、教科・領域ごとの分科会で指導法の効果を検証し、PDCAを進める。 ・意義と目的に照らして活動を見直す。そのために児童生徒のアンケートや行動観察により評価して改善策につなげる	
	知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実	①一貫した授業改善を推進する ②学習の個性化、指導の個別化への対応を進める。 ③改訂版鷹南スタンダードを浸透させる。	①三鷹市教育研究協力校としての研究成果を生かし、乗り入れ授業を活用した各教科等の本質に迫る主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を進める。 ②学校支援ボランティア等を拡充しながら地域未来塾やタブレット端末を活用し、家庭学習の習慣を身に付けるとともに、より主体的な学習への構えを作っていく。 ③児童・生徒が主体となり改訂版鷹南スタンダードの見直しを図ることで、主体的に学校生活を送る態度を育てるとともに、定着のため保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化する。	①鷹南生活スタンダードの活用を児童・生徒が主体となり見直すこと、一層、焦点化、重点化したものにするともに、主体的に学校生活を送る態度を育てる。また、保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化する。 ②学園生としてまとめたデジタルシチズンシップについての考えを基に、デジタル社会に求められる人権教育を育てていく。教師が手本を示し、いじめ防止やいじめの対応に全力で取り組む。当事者や保護者にきちんと説明して納得を得るようにする。さらに学校行事・学園行事やボランティア活動を通して自己有用感や肯定感を高める。	(知) 確かな学力	・学園の各研究分科会の提案を受けて学習ボランティアの活用を図りながら学習の個性化や指導の個別化に配慮しながら日常授業の改善を推進する。 ・鷹南スタンダードを基盤として、家庭学習や自主的な学習を充実させ、学習用タブレット端末の活用を図りながら、より主体的な学びの構えを作っていく。	・教科の本質・中の系統を意識した主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びを学習用タブレット端末の活用と合わせて日々の授業実践に取り入れるとともに、学校支援ボランティアを効果的に活用する。 ・児童・生徒が主体となり改訂版鷹南スタンダードを見直し、家庭学習、タブレット端末を活用した自学自習の習慣、反復学習の徹底などを推進する。	・評価に視点をあおくとともに、一人ひとりに応じた学びを取り入れ、学習用タブレット端末を活用しながら、日々の授業実践を工夫していく。校内研修や観察授業の機械を活用するとともに、学校支援ボランティアの活用場面を検討し取り組ませながら、改訂版スタンダードの取り組みについて子ども、自己評価等にも組み入れ、保護者に伝えるなどしながら、連携を強化していく。 ・児童・生徒が主体となり改訂版鷹南スタンダードを見直し、あいさつ、靴箱の整頓など分かりやすい行動目標を示し、できるまで取り組ませる。
	(徳) 豊かな人間性	①改訂版「鷹南スタンダード(生活のスタンダード)」を浸透させる。 ②デジタル社会に通用する人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。	①改訂版鷹南生活スタンダードを児童・生徒が主体となり見直すこと、一層、焦点化、重点化したものにするともに、主体的に学校生活を送る態度を育てる。また、保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化する。 ②学園生としてまとめたデジタルシチズンシップについての考えを基に、デジタル社会に求められる人権教育を育てていく。教師が手本を示し、いじめ防止やいじめの対応に全力で取り組む。当事者や保護者にきちんと説明して納得を得るようにする。さらに学校行事・学園行事やボランティア活動を通して自己有用感や肯定感を高める。	(徳) 豊かな人間性	・鷹南生活スタンダードの活用を通じ、目的を意識させるとともに達成感を味わわせ、自己肯定感を高める生活指導を浸透させる。 ・児童・生徒を主体としたデジタルシチズンシップ教育を活用しながらいじめを生まない学校風土を醸成する。	・目的に納得しながら主体的に取り組めるように指導を工夫する。児童・生徒が主体となり改訂版鷹南スタンダードを見直し、重点目標の共有と率先垂範による取り組みの徹底を図る。 ・デジタルシチズンシップ、道徳教育、支援教育、特活・交流活動等の社会性を育てる教育の指導の重点について共通理解して取り組み、保護者等に理解を求めていく。	・長期休業前日明けに、一定期間の記録を行う「こやか調べ」を実施し、生活リズムを振り返るきっかけを作る。また、振り返った内容から自己の課題を保護者とともに考えさせ、具体的に解決する手立てを見出し、実践させる。 ・学校ボランティアを活用し、体力測定を適正に実施していく。休み時間を活用した体力づくりを検討・実施するとともに、放課後子ども教室との連携を図る。	
特色ある教育活動 (その他)	①地域の財を活用して総合的な学習の時間等の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用して自己肯定感を育んでいく。	① CSサポート部や学校支援ボランティア、その他の地域人材の活用について教育計画に位置付け、積極的に実施していく。 ② 節目ごとに自己を振り返る活動を位置づけ、コーチングをベースに自己の成長を自覚する取り組みをしていく。	① CSサポート部や学校支援ボランティア、その他の地域人材の活用について教育計画に位置付け、積極的に実施していく。 ② 節目ごとに自己を振り返る活動を位置づけ、コーチングをベースに自己の成長を自覚する取り組みをしていく。	特色ある教育活動 (その他)	・すべての児童が自ら目標を立て「自分で自分を伸ばす」ことができるよう、安心できる環境をつくること、目標達成に向け粘り強く支援する。 ・キャリアパスポートの取り組みを、保護者と共有し、家庭とともに自己肯定感を育む。	・すべての児童が学習に参加することができるよう、安心できる環境づくりに努める。 ・学習支援ボランティアの活用場の場を広げるとともに、研修を行い特別支援教育への理解を深める。 ・特活部・学年会等で毎学期ごとに取り組みを確認し確実に実施していく。		
喫緊の課題	①教員のタイムマネジメント力、外部人材の活用率の向上 ②地域行事等への参加の工夫等	① ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにするとともに、積極的、計画的に学校支援ボランティア等の外部人材を活用していく。 ② 地域行事については、年度当初から見直しをもち、計画的に参加できるようにする。	① ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにするとともに、積極的、計画的に学校支援ボランティア等の外部人材を活用していく。 ② 地域行事については、年度当初から見直しをもち、計画的に参加できるようにする。	学校の働き方改革	・休日出勤も含めて働く時間を把握させた上で、授業の充実を最優先にし時間の短縮を図る。 ・年間計画を見通して、参加できる地域行事等に見直しをもつ。	・タブレット端末等ICTを、会議の精選や保護者の連絡に活用し効率化を進める。部分的にも教科担任制を進め、授業準備の効率化、外部人材を活用した指導の質の向上を図る。 ・年度当初に地域行事の予定を知らせ、無理なく参加できる体制を整えていく。		